

みんなのちから

3月31日(日) ~ 4月5日(金)

IN 兵庫県立南但馬自然学校

| | 午前 | 午後 | 夜 |
|-----|---------------------------|---------------------------|----------------------|
| 1日目 | 施設に向けて出発 | 仲間作りゲーム 研修①「オリエンテーション」 | 研修②「ナイトハイク」 |
| 2日目 | 研修③「カートンドッグ」 研修④「野外炊飯」 | 研修⑤「工作」 | 研修⑥「キャンプファイア」 |
| 3日目 | 研修のまとめ | まるかじりメンバー合流 レクリエーション | ナイトハイク 屋内レクリエーション |
| 4日目 | カートンドッグ 野外炊飯 | 野外炊飯 グループタイム | キャンプファイア |
| 5日目 | 清掃、思い出工作 | 片付け、施設移動 | 温泉入浴 休憩 |
| 6日目 | 清掃、大振り返り お疲れBBQ | 授与式・施設を出発 解散式 | |

一日目： 今年度最後のキャンプが始まりました。今回は九名のジュニアが大きなチャレンジをします。尼崎から電車に乗り、姫路へ向かいました。電車の乗り換えに時間があるので、初めの研修として、【他己紹介】を行いました。バティの相方に沢山の質問をして、発表までに出来る限りの情報を集めてもらいます。質問当初は、「誕生日は？」や「好きな食べ物は？」、「趣味は？」などありきたりな内容でしたが、お互いの緊張がほぐれると、徐々に深掘りな質問が出てきました。昼食を挟み、お昼過ぎに施設に到着しました。この頃にはある程度関係性は出来ておりました。しかし、同じ年や、昨年一緒にいた友達同士と近しい人達としか話せておらず、バティとの関係性はまだ構築出来ていない様子でした。それは他己紹介の発表でも表面化されており、しっかり紹介出来ている人と不十分な人と、ハッキリしていました。要所ごとに「リーダーとは？」と話をしております。今回の皆さんは真面目で書かれた内容や聞いた話、見た様子をしっかりとメモを取られています。夜は同時開催の【はじめの一歩②】のキャンプファイアにお邪魔をし、キャンプファイアの雰囲気やレクリエーションについて見せてもらいました。ジュニアの中には、「あれをまるかじりメンバーにするのか…。」と不安な言葉を発する場面が伺えました。明日は実技の研修を立て続けに行います。“春まるかじりツアー”（以下春まると略します。）の参加者皆さんに最高の思い出をつくってもらうために、スキルアップを目指していきましょう！！



二日目： 今日は実技研修をメインに進めていきます。朝起きると昨日よりも気持ちに少し締まりが見られ、ジュニア同士で声を掛け合っていました。朝食は、キャンプの定番【パックドッグ】です。ジュニアの中には何度も作った事がある方も多いのですが、それを教えないといけません。作り方の手順や注意しないといけないこと、上手に焼き上げるコツを一つずつ確認しながら作りました。朝食後は、続けてカレーを作りました。こちらは全員が野外炊飯で作った事があったので、和気藹々と作っておられました。ただ、今回は仲良く作ることが目的ではありません。春まるでは教える立場として、作り方や危険な事に注意しないといけないです。そこに対しての意識が薄れている様子でした。仲良くなることと信頼関係をつくりあげる事は別であり、そこに気付いてもらわなければいけません。カレーは美味しく出来上がりましたが、色々と考えなければならないカレー作りでした。野外炊飯の後は【焼き板工作】、【キャンプファイア】の研修を行いました。先程のカレーブルで意識が出来ており、皆真剣な表情で取り組んでおられました。ガスバーナーを扱うので、火傷への対策をノートにまとめ、考えを共有されている様子が伺えました。キャンプファイアは本番に向けて、どのようなレクリエーションをするか考え、練習に励みました。『自分達が楽しむのではなく、皆に楽しんでもらう』をスローガンに話し方や進行について丁寧に取り組んでおられました。夜はナイトハイクの研修です。これまでの研修とは異なり、自然を感じるプログラムなので、ジュニアが自然に対して感じる内容をどうやって春まるメンバーに伝えるかを考えいただきました。丸一日かけて研修を行い、意識は大分

高まったと思います。同時に疲れの色が少し見え始めました。明日から“春まるかじりツアー”の本番です。大きな思い出に残るキャンプを創り上げていきましょう！！

三日目：朝から緊張が走る雰囲気が出ておりました。朝食を済ませると、最後の総仕上げとして、これまでの研修内容を振り返り、キャンプファイアのレクリエーションの練習に励みました。また、春まる中の施設の使い方やルール説明は全てジュニアにしていただきます。その担当を決め、話す内容の共有を行いました。昼食前にまるかじりメンバーが施設に到着しました。緊張がピークに来ているのでしょうか、食事風景がいつも以上に重々しい様子でした。昼食後に名札をもらい、リーダーネームを書き、首に下げました。この時から『まるかじりリーダー』として動いていただきます。まるかじりメンバーの前で自己紹介をする時、ガチガチに緊張されている様子が伺えました。それでも一生懸命に関わろうとされている姿も伺えました。使い慣れた施設でも、春まるメンバーと一緒に行動すると、なかなか上手くいかず、苦戦されていました。夕食後、ナイトハイクを行いました。昨日に自分達で行った時とは勝手が違い、自分達の想いが伝えられず、もどかしい様子でした。なんとか一日が終わり、ジュニア達だけで振り返りをする際、「思い通りに動けない。」、「意見をまとめられない。」、「言うことを聞いてくれない。」など様々な悩みが出てきました。みんなのちからリーダーや、グループ担当のリーダーからアドバイスをもらい、翌日に臨む姿勢が見られました。連日振り返りが遅くまで続きますが、寝不足にならないよう早く休みましょう。

四日目：春まるメンバーよりも早く起き、皆を挨拶から迎える様子から、心機一転、やる気が感じられました。朝食は【パツクドッグ】です。作り方は研修済みなので、皆、一生懸命に説明されました。必死に説明をするあまり、メンバーの表情や動き、会話に目を向けられていない様子でした。また、疲れも重なり、動きは鈍く、春まるメンバーの安全確保に対しても疎かになっていました。朝食のパツクドッグはきっと研修の時のように美味しく食べられないと思います。この状況はカレー作りでも続き、ジュニア同士で揉めているグループも伺えました。カレー作り後に、一旦グループから引き上げ、休憩を含め、話し合いを設けました。グループメンバーの様子を見ているか、バティと上手く連携を取れているか、そしてキャンプを楽しめているか。一人一人に問い合わせ、中には涙を流すジュニアもおられました。自身の不甲斐なさを痛感し、どうすればいいかを話し合いました。話し合い後の動きには、「次どう動けばいいか」という【意識】を見受けられるようになりました。夕食後は、キャンプファイアです。今回は、TOPのスタッフやリーダーは一切出ず、進行やレクリエーション全てをジュニアにしていただきます。メンバーよりも早めに夕食を終え、春まるリーダーにグループをお願いし、ファイア場にてギリギリまで練習をしました。話す内容やスピードをジュニア同士で確認しあい、修正を加えました。そして本番です。点火後から終わりまでジュニア達は、誰一人手を抜くことなく全力で取り組まれていました。その想いは春まるメンバーに伝わり、沢山の笑い声や笑顔が見られました。最後は何度も踊ったダンスで締めくくりました。夜の振り返りでは、ジュニア達も春まるメンバー達が楽しんでくれた事を実感されており、確かな手応えを感じておられました。

五日目：朝から退所の為の大掃除で忙しく動いています。布団の片付けや掃除の手順などもジュニアが率先して行いますが、昨日の話し合いが活きており、各々動いておられました。朝食を挟み、五日間利用した生活棟を徹底的にキレイにしました。清掃後は春まる最後のプログラムである、【焼き板工作】を行いました。ただ、ジュニアの疲れはピークに達しており、清掃中に声掛けが少なかつたり、意識をグループに向けられていない時があつたりしました。なので、活動前に少し皆を集め、話をして、最後の一揃りまで元気を出すように促しました。ジュニア達の焼き板は研修で事前に焼いていますので、春まるメンバーが焼くサポートに徹しました。メンバーが火傷をしないように、周りに配慮をし、声を掛けて、注意を払いながら焼いてもらいました。グループ全員が焼き終わると、みんなで絵付けをしました。思い出に残る光景を描いている時は、メンバーと談笑を楽しみつつ過



ござっていました。和やかな良い雰囲気は昼食でも続き、初めて【楽しい食卓】であったと思います。昼食後は春まるメンバーが出発の時です。各グループで最後の会話を交わし、メンバーがバスに乗り、出発をしても、最後まで「またねー！！」と声を出し続けておられました。春まるメンバーが去った後の施設は、先程までの賑やかさは嘘かのように、とても静かで、寂しさが漂っていました。少し休憩をした後は、早いですが今日の振り返りと、明日の総決算で話す内容を考えました。そして、ジュニア達も施設を出発する時間が来ました。施設に向かって御礼を伝え、最寄り駅まで歩き始めました。この時には先程までの緊張は切れており、穏やかな表情を見せておられました。電車を乗り継いで、福知山へ向かいました。ここで夕食を済ませる為に、お店に入り、自分達の食べたいものをいただきました。夕食後に春まるリーダーと合流し、福知山温泉へと向かいました。温泉でゆっくり疲れを癒して、出てくる頃には眠そうにされている方もおられました。今回の宿泊先は、TOPの施設である“うつぐみの郷”です。利用した事がある方大多かったので、施設に到着してから寝るまでの準備を知っている方が色々と促しつつ、早々に布団に入り、休まれました。長い一日、本当にお疲れ様でした。

六日目：これまでの朝とは違い、ゆっくりした起床となりました。朝食を済ませると、最後の振り返りを行いました。天気も良かったので、外で行うバティもありました。これまでの出来事を振り返り、自身の想いや考え、行動の変化の軌跡を確認しました。振り返り後はジュニア、春まるリーダー、みんなのちからリーダー全員揃い、キャンプの総決算を行いました。昨日から話すことを考え、ノートに書き、キャンプから感じたこと、学んだこと、バティへの想いなど、思いの丈を一人一人発表していただきました。どの内容も素直で決して無理のない素敵なものでした。昼食は皆さんの頑張りを労って、うつぐみの桜の木の下でBBQを楽しみました。これまでの緊張から解放され、ジュニア、リーダー問わず、頑張った者同士、大いに楽しみました。BBQを堪能した後は、施設を清掃し、そして、うつぐみを出発する時間となりました。出発前に研修終了証授与式を行いました。一人ずつ名前を呼び、証書を受け取る姿は、初日の姿とは全く異なる、凛々しく、適度な緊張を持った、輝かしい姿でした。帰りの車内では、お互いノートにサインや一言を書き合い、思い出を残しておられました。尼崎に到着し解散する前、別れを惜しみ、「また会おう！！」と約束を交わされました。各解散場所において、お迎えの親御様に会われると、緊張から安堵な表情が伺えました。六日間、本当にお疲れ様でした。



<キャンプ総括>

今年は最終日の振り返りをTOPの施設である、【うつぐみの郷】にて実施致しました。施設で全て行えばいいものの、私の「うつぐみの大きな桜の木の下で最後を迎えること！」という勝手な想いから、皆さんには大変なご足労をお掛けしました。結果的には場所が変わると、気持ちもリフレッシュされ、振り返りや最後のまとめ、授与式全てが非常に良いものになりました。キャンプにおいて【こだわり】を持つことは非常に大切だと考えています。こだわることで、プログラムの質は向上しますが、大事なのは『誰の為に』こだわるのかです。企画者が「ただやりたいから…。」という想いはこだわりではなく、エゴです。その一線はしっかりと守らないといけません。みんなのちからでは、毎夜メンバーに歌を贈りました。最後の歌が森山直太朗さんの“さくら”でした。歌もこだわりです。場所もこだわりです。だからこそ、いつまでも記憶に残る場面が生み出され、キャンプの成功に繋がったと感じています。ジュニア皆さんが各家庭で沢山の思い出話をされていると思います。こうした『メンバーズファースト』の精神を怠ることなく、これからもこだわりが強く、印象に残るキャンプを実施していきます。最後となりましたが、本当に長期間のご参加、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。今回、身に付けられたちからを学校や私生活に還元し、ご活躍されることを切に願います。

(竹中 哲郎)